

都道府県名

岩手県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	釜石市立平田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	2	1	1	8	15
児童数	38	40	40	38	49	38	1	244	

研究の概要

1. 研究主題

算数科における個に応じた指導法の開発
～ 学びの深まりを求めて ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数

- ・ 児童の理解度に差が出やすい教科であり、学年の系統性を踏まえた指導を行うため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 算数科における個に応じた指導法の開発 ～ 少人数指導を中心に～</p> <p>研究の見通し(仮説) 算数科において小集団化を図った指導を行えば、児童一人一人が学習の意欲をもち、確かな学力を身に付けることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 < 研究内容 > (1) 単元を見通した習熟度別の指導法 (2) 評価の観点に照らし合わせ、児童を適切に評価するシステムの開発 (3) 個に対応する学習教材の開発 < 研究方法 > (1) 理論研究 文献等による理論研究 (2) 実践研究 児童の実態調査の分析・記録・活用 授業研究 授業実践の検討とまとめ</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 算数科における個に応じた指導法の開発 ～ 学びの深まりを求めて～</p> <p>研究の見通し(仮説) 学習に対する興味・関心を刺激する環境の整備を図りながら、学習の主体者である児童の「学びのみちすじ」に即した指導を行えば、児童一人一人の学びが深まるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 学習の主体者である児童の「学びのみちすじ」についての解明 (2) 一斉指導・TT指導・少人数指導のよさを生かす授業実践</p>
----------------	---

- (3) 児童の学習に対する興味・関心を刺激する環境の整備
- (4) 児童の学習を支えるサポート体制の確立を図る。
- (5) 保護者や地域の方々への啓蒙
- (6) NRTやCRTの検査結果等の分析を基にした基礎基本の定着状況の把握

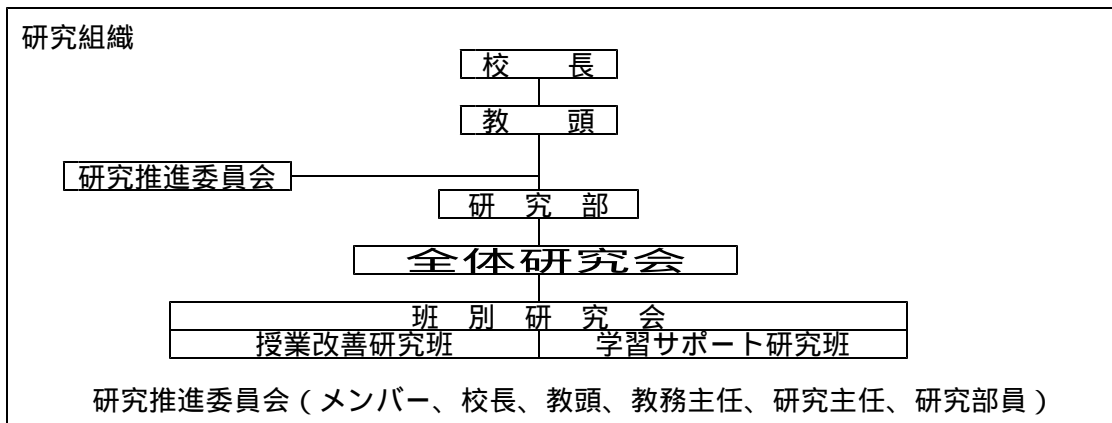
平成16年度

テーマ
算数科における個に応じた指導法の開発
～学びの広がりを求めて～

研究の見通し(仮説)
児童の学びを支援する学習環境の充実を図りながら、学習の生活化を目指した指導を行えば、児童一人一人の学びが広がるのではないかと。

研究の内容・方法
(1)授業実践を通して、学習の生活化を目指した指導について明らかにする。(理論研究・授業実践)
(2)児童実態及び学習内容に適した指導形態について実践的に明らかにする。(授業実践)
(3)児童の学びを支援する学習環境の充実を図る。
(4)児童の学びについて、家庭及び地域間連携をさらに推進する。
(5)NRT や CRT 検査結果等の分析をもとに、基礎・基本の定着状況の把握を継続する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 学習の主体者である児童の「学びのみちすじ」についての解明
「学びのみちすじ」や「学習習慣」など学習内容に関するものを各教室に掲示した結果、児童が意欲的に授業に向かうことができるようになってきている。授業の流れでも、「学びのみちすじ」に沿った授業をしていると、次に行う学習内容をつかむことができ、スムーズに授業を進めることができるようになってきている。基本的な授業のパターンを児童に示し、それに即した授業を行うということは、児童にも安心感があり、また授業する教師(少人数担当も含む)側にとっても児童がコースを変わっても同じように授業を進めることができるので、役に立っている。
「まとめる」の段階に意図的に時間を多くとることにより、授業の中にメリハリがでて、児童の意欲が持続するようになってきた。また、習熟の時間を十分とることで理解度(観点別)も高まってきている。さらに、授業の最後に自己評価を入れることによっても、児童が1時間の授業を振り返ったり、次時に前時の確かめをしたりする上でも意欲の継続につながっている。
コース毎の進度を同じにすることにより、児童が安心してコース選択することができる。また、上位コースでの発展的補充的問題に取り組む時間が十分に取れて、児童にも好評である。

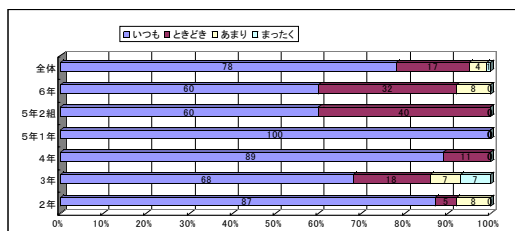
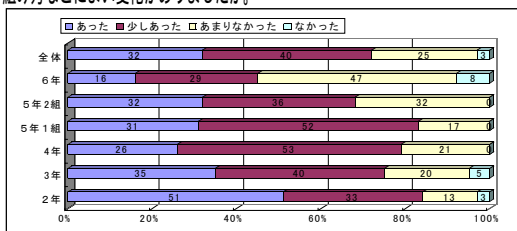
(2) 一斉指導、TT指導、少人数指導のよさを生かす授業実践

少人数で授業を行った場合、授業の中で発言をしたり、教師の声がけをもらったりする機会が飛躍的に増え、大変有用な指導形態である。児童のアンケートをみたとき（資料1）も、少人数指導については肯定的な意見が多く受け入れられている。

単元途中でコース変更を取り入れながら児童の学習する意欲や理解を高める工夫をしているが、指導形態を変化させることと併せて、まだ検証が必要である。しかし、今年度の実践を顧みると、指導形態の工夫も単元途中のコース変更も高学年では実践可能であると思われる。

（資料1）少人数指導アンケート 抜粋 （平成15年11月実施）

- 1 コース別の少人数で学習する前と後を比べて、あなたの学習への取り組み方などにより変化がありましたか。 2 これからもコース別の少人数で学習したいですか。



（3）児童の学習に対する興味・関心を刺激する環境の整備

ポイントとなる既習事項を教室や教材室に掲示しておくことは、児童の興味・関心を刺激するという点で有効である。特に、既習事項と関連付けて考えることが不得手の児童にとっては必要であると考えられる。

（4）児童の学習を支えるサポート体制の確立

学習内容の習熟を図るために、算数道場を行っているが、児童にはおおむね好評である、全般にその日の学習を補充にくる希望者が多く、たくさんの児童が活用している。場所等の事情もあり、低学年の利用頻度が多い。

本年度から全校の取組として朝学習を位置付けた。各学年毎に工夫して取り組み、効果が上がっている。

（5）保護者や地域の方々への啓蒙

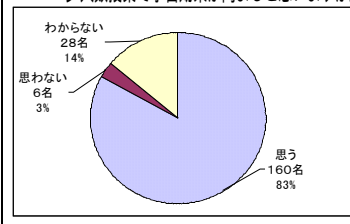
今年度に入り、授業参観や研究授業の際に保護者に参観していただく機会が増え、少人数授業についての直接的な声を聞ける場となっている。

P T Aの代表の方との会議ももち、少人数授業や家庭学習について意見をいただくことができた。

11月に実施した保護者向けアンケートでも、少人数授業について8割強の方に好意的に受け止めて頂いている。

（資料2）保護者アンケートより 抜粋

- 1 少人数授業で学習効果が高まると思いますか。



（6）NRT や CRT の検査結果等の分析を基にした基礎基本の定着状況の把握

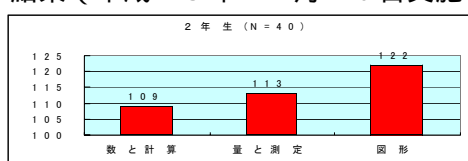
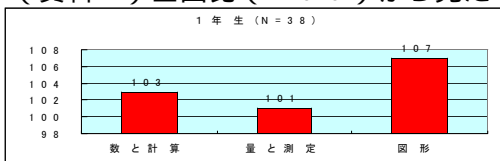
N R Tの検査結果をみると、全体的には、どの学年も全国基準値を上回る偏差値になっており、おおむね学習が定着していることが分かる。（資料3）

またオーバーアチーバーの児童の割合も多いので、今までの学習のみならず今後も自信をもって学習に取り組めるように支援をしてきた。また、どの学年にも下位の児童がいるので、一層確かな学力を身に付けさせていくように取組をしている。

今年度12月実施のCRTの検査結果を見ると

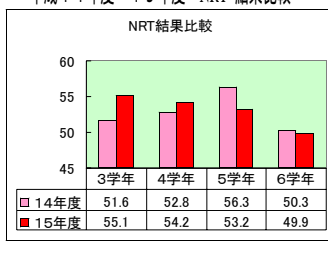
（資料4）学年毎の差はあるが、全体としては、全国得点率を上回る得点となっている。領域別に見た場合、数と計算領域でどの学年も全国得点率を上回り、成果が表れているとともに、算数科の基・礎基本となる事項で確かな学力が培われてきている。

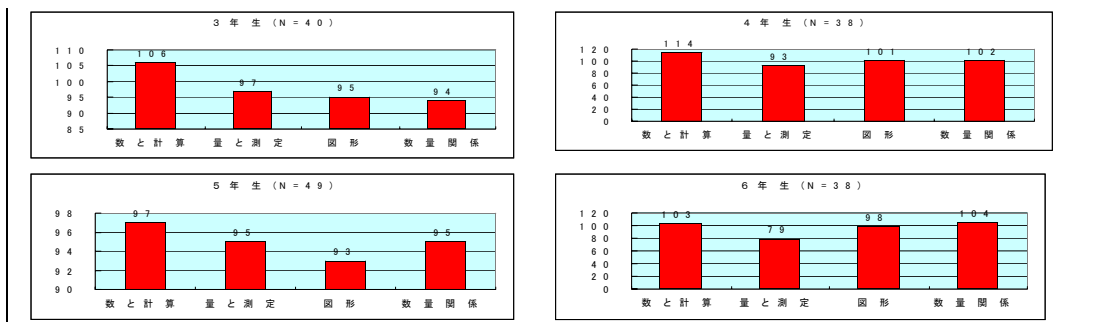
（資料4）全国比（100）から見たCRT結果（平成15年12月10日実施）



（資料3）

平成14年度・15年度 NRT 結果比較





2. 今後の課題

今年度の取組から、次の4点が課題として挙げるられる。

- (1) 少人数指導の有用性はここ2年間の研究で検証できたが、児童がより意欲的に学習に取り組めるように、少人数指導と一斉指導・TT指導との有効な組み合わせや、生活場面との関連性をもたせるよう手立てを探っていく必要がある。
- (2) 既習事項の掲示やプリントを用いることにより、児童の学びを支援する学習環境の整備を図ることができたが、より一層の工夫と計画的な取組が必要である。
- (3) 保護者や地域の方に、機会を捉えては啓蒙を図ってきたが、学力向上についての継続的な理解と協力を得るためにも、さらなる啓蒙を図る必要がある。
- (4) CRTの結果を分析したところ、「図形」や「量と測定」の領域で落ち込みの見られる学年があるので、授業形態や指導方法の工夫を図り、さらに確かな学力を児童に身に付けさせなければならない。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力検査の実施 (NRT 国・算 2 学年以上 年1回 4月実施)
(CRT 国・算 全学年 年1回 12月実施)(CRT 社・理 3 学年以上 年1回 12月実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 学力向上フロンティアスクール授業交流会
日時 平成15年11月21日
会場 本校
対象 各指定校代表及び市内各小中学校希望者
- 2 管内学力向上推進会議における推進状況の交流
(1) 第1回管内学力向上推進会議
日時 平成15年6月9日
(2) 第2回管内学力向上推進会議
日時 平成16年1月30日
- 3 校内学力向上推進会議における推進状況の報告と次年度に向けて
(1) 第1回校内学力向上推進会議
日時 平成15年11月4日
(2) 第2回校内学力向上推進会議
日時 平成16年3月2日
- 4 HP による研究内容等の紹介
- 5 平成15年度「実践記録集」の作成及び配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input checked="" type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |